

CASBEE® 新築

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-新築 (2010年版) | 使用評価ソフト: CASBEE-NC_2010(v.1.6)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株エムエスティ社屋	階数	地上3F
建設地	京都府城陽市	構造	S造
用途地域	第一種住居・準防火	平均居住人員	30人
気候区分		年間使用時間	2,400時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2012年10月 0.0	評価の実施日	2012年3月1日
敷地面積	1,167 m ²	作成者	岡島 篤
建築面積	694 m ²	確認日	2012年3月1日
延床面積	2,056 m ²	確認者	岡島 篤

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>顧客の総合事務所として事務所と作業場の動線に配慮し設計を行った。</p> <p>また、近隣住居が隣接している為、離隔距離などを考慮にいれ建物の配置などを決定した。</p> <p>太陽光・井水などを積極的に取り入れ、地球環境にも配慮した建物となっている。</p>	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>・各部屋ごとに空調設備を設け、必要に応じ冷暖房の入・切が行えるようになっている。</p>	<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>・各部屋ごとの用途によって仕上げ等を変えている。</p> <p>また、事務所部分に関してはOAフロアを採用しレイアウトの変更に対応できるように設計している。</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>・屋上に太陽光パネルを設置し、自然エネルギーの利用を計画している。</p>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>・既存の井戸の井水を用い節水の促進に努めている。</p> <p>また、厨房キッチンなどユニット部材を使用する計画となっている。</p>
	<h4>Q3 室外環境 (敷地内)</h4> <p>・特に特記すべき点はないが、敷地内にあった樹木をそのまま利用し生物環境の保全を行っている。</p>
	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>・特に特記すべき点はないが、敷地内に適切な駐車スペースを設け、交通負荷の抑制に努める計画となっている。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される